

平成27年度 島根県立松江東高等学校 学校評価表

評価計画				自己評価		学校関係者評価		次年度への改善策
重点目標	具体的目標(評価項目)	目標達成のための方策	評価指標	評価	取組状況と課題	評価	意見	
人とつながって生きる力を向上させる	1 互いの人権を尊重し、互いに高め合う態度を育成する。(心の通った切磋琢磨)	人権・同和教育に関するLHRや講演会の充実を図る。	生徒の感想文。生徒アンケート・保護者アンケートの評価。平素の生徒の観察。	A	LHRや講演会は生徒の人権意識を高める機会となった。アンケートQ/Uを生徒理解のためだけでなく、望ましい集団づくりのために活用していく。	A	・生徒が気持ちのよい挨拶をしてくれることから、人となりが生きて生きる力が身につけていると判断できる。	アンケートQ/Uを様々な角度から分析し、それを教職員が共有して、心の通った切磋琢磨ができる集団づくりに組織的に取り組む。
	2 部活動、生徒会活動など課外活動への積極的参加を促す。	部活動紹介を実施して入部を呼びかける。また、活動の状況や成果を積極的に発信する。	部活動加入状況。情報発信の状況。生徒アンケート・保護者アンケートの評価。	A	部活動や生徒会活動に積極的に取り組み、充実感を感じている生徒が多い。生徒会の委員会活動のさらなる活性化に取り組んでいく。	A	・生徒同士の関係が良好であることが、生徒の穏やかな表情に表れている。 ・教員と生徒とのコミュニケーションがとれており、「師弟同行」が実践されている。	主権者教育の一環として生徒会の委員会活動の活性化に取り組み、生徒がよりよい学校づくりに主体的に参加するように努める。
	3 気軽な声掛けの実施と、教育相談、特別支援体制の充実を図る。	平素の声掛けにより相談しやすい関係を構築する。また、生徒支援委員会を機能させ、スクールカウンセラーを効果的に活用する。	対象生徒の状況。スクールカウンセラーの活用状況。	A	生徒支援委員会に関係教職員が情報を共有し、スクールカウンセラーと連携して組織的に生徒に対応した。教職員個々の指導力の向上にも努める。	A	・総合的に学校の雰囲気がよく、生徒が通いやすい学校だと思う。	教育相談や特別支援教育に関する校内研修を実施し、教職員の生徒理解力やコミュニケーション力をさらに向上させる。
自己の未来を切り拓いていく力を向上させる	4 学びのモチベーションを高め、自ら学ぶ態度を育成し、主体的学習者を育成する。	「言語活動の充実」を意識して授業改善に努め、アクティブラーニングを推進する。また、ETC(東高基礎力養成テスト)を効果的に実施する。	授業アンケートの結果。学習時間調査の結果。生徒アンケート・保護者アンケートの評価。平素の生徒の観察。	B	「言語活動の充実」を意識して授業改善に努め、アクティブラーニングを推進した。生徒が家庭学習に主体的に取り組むように保護者との連携を図る。	B	・スキルアップのための基礎を身につけるためには、主体的に学ぶ態度を育成すること必要である。	生徒の興味・関心を高めることを意識して授業づくりを工夫する。また、課題やETCを見直し、生徒が主体的に取り組む効果的な方法を検討する。
	5 東高版キャリア教育(生き方、働き方)の充実を図る。	3年間を見通して、地域、企業、大学等と連携し、生徒が生き方、働き方を体験的に学習する機会を設定する。	キャリア教育に関わる諸活動の事後アンケートの結果。生徒アンケート・保護者アンケートの評価。	B	研修旅行を初めて実施するなど、東高版キャリア教育の充実を図った。キャリア教育の個々の取組の意義を生徒に実感させるように工夫していく。	B	・生徒に具体的なキャリアプランを見せ、自分が将来、地域とどうつながっていくのかを考えさせることによって、生徒の学習意欲を高めることができるのではないかなと思う。	生徒が自分のライフデザインを考えるうえで役だったと実感できるように、高校3年間を見通したキャリア教育の体系化を推進する。
	6 授業力、教師力向上に向けた取組(研修)を推進する。	公開授業・授業研究や授業アンケートを実施する。また、校内研修を充実させるとともに、校外研修に積極的に参加する。	公開授業及び授業研究の実施状況・参観状況。授業アンケートの結果。校外研修への参加状況。	A	各教科の公開授業や授業研究を通して授業改善を推進した。授業づくりの視野を広げるために、他教科や他校の授業を参観する機会を増やす。	A	・研修旅行の内容が充実していると思う。学校の大きな魅力になるように、さらに良いものにしてほしい。	生徒が主体的に考え、学習内容を確実に理解することができるように、授業参観や授業研究を活かした授業改善を組織的に推進する。
	7 個人面談を充実させ、親身になった進路指導を行う。	タイムリーに個人面談を行って生徒の思いを受け止め、一人一人の進路目標の設定や実現にきめ細かく対応する。	個人面談・保護者面談の実施状況。生徒アンケート・保護者アンケートの評価。平素の生徒の観察。	A	個人面談を通して生徒や保護者の思いを受け止め、きめ細かい進路指導を行った。何でも気軽に話せるような生徒・保護者との関係づくりを推進する。	A	・高校入試改革が進められるなかで、東高をどのような特徴のある学校にしていけるかが課題である。	必要に応じてタイムリーに生徒面談・保護者面談を実施し、生徒一人一人の進路目標の設定や実現のために適切なアドバイスを行う。
地域社会の未来と関わる力を育成する	8 地域社会へ明るい話題を提供する。	学校だよりやホームページを通して、学校行事や部活動の状況を積極的に発信する。	学校だよりの発刊状況。ホームページの更新状況や閲覧状況。保護者アンケートの評価。	A	学校だよりやホームページなどを通して情報発信に努めた。学校の取組が保護者や地域住民に伝わるように、内容の充実と広報をさらに推進する。	A	・学校だよりは学校の様子がよくわかり、魅力を発信することに役立っている。 ・現状においても地域の運動会に参加している生徒もいる。	ホームページのフォームをリニューアルし、保護者や地域住民の関心や理解が深まるように、内容の充実や情報の更新に努める。
	9 地域社会への理解と貢献意欲の向上を図る。	東高版キャリア教育や体験活動・ボランティア活動を推進する。	キャリア教育に関わる諸活動の事後アンケートの結果。生徒アンケート・保護者アンケートの評価。	B	地元企業への訪問や社会人講話などを通して地域社会の理解を深める取組を推進した。個々の取組の趣旨を理解させることに努める。	B	・挨拶運動や清掃活動などを継続することによって、地域貢献の意欲が高まると思う。	キャリア教育における取組の趣旨を生徒が理解できるように明確に示し、地域貢献の意欲が高まるように改善する。
	10 生徒の意識の中に「地域化」を図る。	挨拶の励行や校歌をしっかりと歌うことなどを通して、地域や学校の一員であるという意識を育てる。	生徒アンケート・保護者アンケートの評価。平素の生徒の観察。	B	キャリア教育を中心に取り組んでいるが、地域の一員としての意識は十分に育っていない。生徒が地域の活動に直接関わる機会を拡大していく。	B	・生徒が地域と関わるためには、学校と保護者が連携して仕掛けづくりをすることが必要である。	生徒が地域のボランティア活動などに参加したり、近隣の幼稚園、小・中学校、大学と連携する機会を設けたりすることを検討する。

※【評価】 A……大変良い B……良い C……あまり良くない D……良くない